

平成 27 年度 研究成果報告書
Research Achievement Report FY2015

Date: 平成 28 年 3 月 3 日

言語社会専攻長

日本語・日本文化専攻長 殿

To Dean of Studies in Language and Society

To Dean of Studies in Japanese Language and Culture

講座名・職名 Course Title・Job Title	ヨーロッパ・アメリカ II 講座・准教授
氏名 Name	高階早苗
専門分野 Academic Field	近・現代フランス文学

主たる研究テーマ Principal Research Subject	19 世紀人魚伝説とマラルメの人魚
<p>19 世紀ヨーロッパでは人魚をモチーフとした文学作品や造形芸術作品が流行した。その流行の原因を、1) ドイツロマン主義の影響による民間伝説への傾倒 ex. ハイネ『ローレライ』 2) 「運命の女」の流行 ex. 文学や絵画におけるサロメやユディットのモチーフの流行と、バーンズやクリムトの絵画における人魚や蛇女 3) 複合型もしくは無形の怪獣の流行 ex. フローベール『聖アントワヌの誘惑』とルドンによるその挿絵やアール・デコの家具 の三点と捉え、それぞれの特徴を分析した。</p> <p>又、古来よりの人魚の伝承を遡り、19 世紀西洋における人魚の流行に大きな影響を与えたと考えられる二つの系列：ギリシャのセイレーンと、アザラシ女房や蛇女などを含めた異種婚姻譚の流れや特徴を調べ、整理した。</p> <p>更に、そうした時代の流れの中で、19 世紀フランス象徴派詩人ステファーン・マラルメの人魚に関する三篇の詩とそれに関連する 1 篇の詩を分析し、時代の影響を受けつつも、独自の詩学によって、マラルメが人魚に「非現実の存在として現実（あるいは現実と非現実の境界）に現れ、その両方を媒介し、虚構の現象を創出するための場をつくる」という役割を与えていたことを考察した。</p> <p>この成果は『言語文化研究』42 号（大阪大学言語文化研究科紀要 2016 年 3 月 31 日発行予定）掲載の論文として発表した。</p>	